

新 生

しなやかに 優雅に 静香 金メダル 小富士



東北新生園入所者自治会

平成二十七年十二月 十日印刷
平成二十七年十二月 二十日発行

新生第六十七巻 第四号

新 生

平成二十七年十二月 十日印刷
平成二十七年十二月 二十日発行

東北新生園の概況

所在地	宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢1番地
土地面積	351,291㎡
建物延面積	25,280㎡
開 園	昭和14年10月27日
医療法承認病床	244床
標榜診療科	内科、外科、皮膚科、眼科、耳鼻いんこう科、歯科
現在入所者数	男32名 女45名 計77名
職員定員数	153名（平成27年4月1日現在）
園 長	医学博士 横 田 隆

東北新生園交通案内図



第六十七巻 第四号

第17回寛仁親王妃杯女子コスモス ゲートボール大会

— 平成27年9月30日 —

信子妃殿下お成り

大会参加者・
入所者の皆さんと
御交流されました



園内日誌

平成二十七年 七月～九月

《七月》

三日 三遊亭遊馬独演会
十七日 福島県慰問
二十二日 岩手県慰問
二十五日 第十七回新生園花火大会
三十日 自治会研修旅行（岩手県奥州市方面）

《八月》

五日 秋田県慰問
十三日 楓会お盆行事（納涼抽選会）

《九月》

七日 物故者慰霊祭
十一日 敬老の集い（庄司恵子公演会）
十八日 新田中学校交流演奏会
三十日 第十七回寛仁親王妃杯
女子コスモスゲートボール大会
（三十チーム参加）
信子妃殿下お成り

【謝寄贈図書欄】

平成二十七年七月～九月（敬称略）

多磨	始良	菊池	高野	青松	愛生
東京都	鹿兒島県	熊本県	群馬県	岡山県	岡山県
多磨	星塚	菊池	栗生	大島	長島
全生園	敬愛園	恵楓園	泉園	青松園	光明園

平成27年12月10日 印刷
平成27年12月20日 発行

発行集刷 東北新生園楓会(自治会)
編印 楓会文化部
川内印刷株式会社

〒989-4601

宮城県登米市迫町新田字上葉ノ木沢一

東北新生園 電話 0228 (38) 2121(代)
発行所 東北新生園入所者自治会 電話 0228 (38) 3600



新生・第六十七巻第四号……………目次

表紙…「ビールマンズピン」……………桃生 小富士

よろしくお願いします……………看護師…高橋 千春…(2)

「はじめまして」……………看護師…伊藤 薫…(4)

よろしくお願いします……………看護師…佐々木 優…(6)

よろしくお願いします……………看護師…佐々木 麻美…(8)

よろしくお願いします……………共済係…佐藤 美季…(11)

『入所者の俳句を訪ねて』…宮城ハンセン協会事務局長…金子 昌熙…(12)

— 新生文芸 —

詩……………選者…佐々木 洋一…(22)

短歌……………選者…長田 雅道…(26)

俳句……………選者…山田 桃晃…(27)

川柳……………選者…栗石 隆子…(29)

「残り香」……………北辰 一硯…(31)

園内日誌・謝寄贈図書

よろしく願います

看護師 高橋 千春

九月一日より、第一メーブルケアセンターに勤務しております、看護師の高橋千春と申します。

こちらに勤務し、日々の業務を覚えるのに精一杯で、あつという間に三ヶ月が過ぎようとしています。

先輩スタッフに、丁寧に御指導していただいたり、入居者の方に温かい励ましの言葉をいただいたり、恵まれた環境にいることを有難く思っております。

勤務している中で、感じたことがあります。

それは、入居者の一人一人に合わせた援助が行われているということです。その人のADLや残存機能に合わせ、QOLを低下させず安全なケアを提供するために、スタッフ間で意見交換し、すぐ実行に移すところに感銘を受けました。

入居者の方へ、安心して安全な生活援助を提供している先輩方に早く近づけるよう、私も日々努力していこうと思います。そのためには、入居者の皆さんから信頼してもらえ看護師を目指します。

まだまだ未熟で、ご迷惑をおかけする点も多いと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

私は、栗原市若柳で生まれ育ちました。子供の頃の最初の夢は「看護師」でした。

その後は、ピアノの先生、保育士、銀行員と変化していきました。中学の頃、福祉関係の学習をしてから、人と関わる仕事に就いてみたいと強く思いました。

高校では、友人が看護師を目指しており、話を聞いているうちに徐々に興味を持つようになっていきました。また、親戚に看護師がおり身近な存在でした。

このようなきっかけから、看護師の道を歩むこととなりました。

こちらに勤める前は、大崎市古川まで通勤していました。冬の古川は雪が多く、道路状況が悪い時は、何度も危険な思いをしました。事故なく通うことができました。

今は、以前と比べ通勤距離が短くなったので、その分、気持ちにゆとりができ安心感も生まれました。



祝 敬老の集い 庄司恵子公演会

—平成27年9月11日—



宮城県を代表する民謡歌手
庄司恵子さんと娘のたらさわかすみさん

「はじめまして」

看護助手 伊藤 薫

平成二十七年七月十六日付で、新生園第一
メーブルケアセンターに採用となり、あつと
いう間に四ヶ月が経とうとしています。

前職も介護の仕事に携わっていましたが、
新生園でのお仕事は、今までやってきたこと
と違っており、毎日、覚えることがたくさん。
失敗もたくさんあり、時には落ち込むことも
ありますが、入所者さんとのコミュニケーション
が、とても楽しく励みになります。入
所者さんの笑顔が、私の心の栄養・元気の源

思えるようになった」と…。

私も新生園に入って、戸惑い心が折れそう
なこともありましたが、そんな時、入所者さ
んから「慣れた?」「頑張ってるね」「ありがとう」
など優しい言葉をかけて頂き、何度救われた
ことか…。私もその男性職員さんの言う通り、
入所者さんを家族のように大切に思い、入所
者さんが自分らしく心地良い空間を造ってい
けたらいいと思います。

また、自分自身も先輩職員方の一つ一つの
ご指導をしっかりと感謝しながら吸収し、頑
張っていききたいと思っています。
これからよろしくお願いいたします。

となっております。

また、新生園での様々なレクリエーション・
催しがあり、好奇心旺盛な私にとって楽しみの
一つであります。最近では、文化祭の作品
を職員だけでなく、入所者さんと一緒に作品
を作り上げ、第一メーブルでは見事な「ねぶ
た祭り」のお神輿が完成いたしました。

当日、職員がハッピーや浴衣など衣装を着て
一階から三階まで、勇ましく力強いお神輿と
ぶっつけ本番の「ラッセラー」の踊りを、
入所者さんにお披露目し、喜んで頂けました
が、職員も楽しめて良かったです。

今まで（前職では）業務中心で慌ただしく
仕事をしてきたので、こういう催しや入所者
さんとソファにゆったり座ってお話できるの
は、とても新鮮に思います。

ある男性職員さんが言っていました。自分
が介護員になったばかりの話をして下さり、
「あれから自分は入所者さんを家族のように



平貞能公御廟



五重塔

秋季バス旅行 (仙台市・定義山)

—平成27年10月23日—



境内の庭園

よろしくお願ひします

看護助手 佐々木 優

十月一日から第一メーブルケアセンターでお世話になっております。看護助手の佐々木優と申します。まだお会いした事がない方もたくさん居ると思いますので、簡単に自己紹介させて頂きます。

私は大崎市古川出身です。「優」という名前から幼い頃は、「優くん」と男の子に間違われることも少なくありませんでした。これから皆さんに顔と名前を覚えて頂けるよう頑張りたいと思いますのでよろしくお願ひします。

とっては、柿もぎも、干し柿作りも初めての事なので、皆さんに教えてもらう事ばかりです。その他にも分からない事だらけだと思いますので、ご指導の程よろしくお願ひ致します。

私にとって、皆さんとお話させて頂く事は、楽しみの一つです。世間話をしたり、昔の写真を見ながら当時の様子を聴かせて頂ける事は、とても貴重な事であり、有難い事だと思っています。これからも、皆さんから色々なお話を伺える事を楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします。

す。

新生園で働かせて頂いてから、一ヶ月が経ちました。まだまだ分からない事や出来ない事も多く、入所者の皆さんや先輩スタッフの方々にはたくさん迷惑をかけてしまっているかと思っています。そんな私に優しく声を掛けて下さる皆さん、気づかない所でフォローして下さいる先輩方のおかげで、何とか仕事をさせて頂いております。

新生園の最初の印象は、皆さんとても元気だなあという事でした。私もそんな皆さんの姿を見て、「自分も、もつと頑張らなくては」と思わせられました。先日、入所者の皆さんと一緒に「柿もぎ」に参加させて頂きました。当日は秋晴れで、とても気持ち良く柿もぎが出来ました。皆さん手慣れた様子で、あつという間に準備してあった段ボール箱がいっぱいになりました。この柿で、干し柿を作るという事で、今から完成が楽しみです。私に



童謡などを一緒に歌いました



新田中学校 交流演奏会

—平成27年9月18日—



よろしくお願ひします

看護助手 佐々木 麻美

十月一日より第一メーブルケアセンターで看護助手として働かせていただいております、佐々木麻美と申します。

この場をかりて自己紹介させて頂きます。私は登米市迫町北方の出身で、新生園からは車で十分程の所に家族と一緒に暮らしています。幼い頃は両親が共働きだったので祖母と過ごす時間が多くありました。祖母が隣近所へお茶飲みに行くのについて行ったり、田んぼや畑の手伝いに行ったり、学校か

ら帰って来ると、こたつの中で焼き芋を温めてくれてそれを一緒に食べたりと、私の中で祖母と過ごした時間はとても温かく優しい思い出として心に残っています。

新生園の入所者の方々は私の祖母や曾祖母と同じ年齢に当ります。働くようになってから、昔祖母と過ごした温かい思い出が思い出される事もあり、懐かしく思います。

母方の祖母は縫い物がとても上手で、小さい頃から祖母の縫い物をする姿をよく見ていて、幼いながらに、いつか自分も縫い物上手になるんだと憧れを抱いていました。そして現在、刺繍をすることが私の趣味となっています。祖母のように上手ではありませんが、祖母と母と共通の趣味を持てたことがすごく嬉しく思います。

他にも、ピアノ、料理、カメラ、旅行など趣味がいくつかあります。ピアノは五歳の頃

から十七歳まで習っていました。辞めてからも好きでよく弾いています。ピアノはこの先もずっと弾き続けたいです。長い間習い事に通わせてくれた両親への感謝の気持ちも忘れずに、指の動きが鈍くならないよう時間を見つけて弾いていこうと思います。

料理というのも、祖母や母が料理好きで上手だったことが、今の私に受け継がれたのかなと思います。まだまだ上手とは言えませんが、作っている時は楽しいなと感じます。果物でジャムを作ったり、今年は果実酒を作りました。いつか祖母のように美味しい漬け物を作りたいです。料理も縫い物も、祖母から母、母から私へと受継がれ、今の自分があるのは家族のおかげなんだなと思います。当たり前のことですが、当たり前の事こそ常に感謝の気持ちを持ち続けていようと思います。旅行も趣味で私はひとり旅に出かけたりします。家族や友人との旅行ももちろん好きで

すが、ひとり旅も好きで、近年では青森、沖縄、京都へ行つて来ました。一人だと困難にぶち当たった時、全て自分の力だけで解決しなければならなかったりと大変なこともあります。旅行から帰ると少しだけ成長できたような気持ちになります。一人だからこそ人の温かさ優しさを感じることも出来ます。道が分からなくなったりした時も、現地の人や旅行者の方達が親切に教えて下さったこともありました。沖縄へ行つて船に乗った時は、私が一人で来ていることを知って乗船していた旅行者の方達が沢山話掛けてくださいました。旅行での出逢いは一期一会ですが、人との出逢いこそがひとり旅の醍醐味だと感じます。これから先も時間を見つけてひとり旅に行こうと思います。ひとりだけでなく、両親や祖母を連れて旅行へも行きたいと考えています。

新生園での入所者の方々との出逢いも私はすごく嬉しく思います。自分より六十も七十

も年上の人生の大先輩との時間はとても貴重なものだと思います。学ぶことも沢山あります。職員の方々にはとても親切に丁寧に業務を教えて頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。失敗する事やご迷惑をお掛けしてしまう事もあります。先輩方がいつもフォローしてくださいます。本当に有難うございます。しかしそういった事に甘えは出さずに自分に厳しく、一刻も早く業務を覚えて行こうと思います。どんな時でも笑顔を忘れず優しい気持ちで、また入所者の方々にも笑顔で過ごして頂けるように頑張りたいと思います。これからどうぞよろしくお願い致します。

よろしくお願ひします

共済係 佐藤 美季

はじめまして、九月一日から共済係採用になりました、佐藤美季と申します。新生園には平成二十五年四月から電話交換としてお世話になっております。新生園ではイベントが多く、いつも楽しみにさせて頂いています。

昨年、私の一生の思い出となる出来事がありました。それは、行幸啓での天皇皇后両陛下へのお茶出しをとという大役をする事でした。紙を見ながらお茶の入れ方、温度、時間などを練習しました。練習すればするほど、

パネル展・屋台祭り

ー平成27年11月5日～6日ー



各センターの力作が展示されました



焼きそば屋台



お茶の味が違ったり、温度が低かったりとなかなか上手に淹れる事が出来ませんでした。お茶の出し方でも二人の呼吸を合わせながら練習しました。

当日：極度の緊張で手にイヤな汗をかいていました。リラックスしようと思えば思う程イヤな汗をかいてしまします。いよいよ両陛下にお茶を出す合図が出されました。入室すると両陛下が光って見えました。お茶出しは無事成功しました。

この行幸啓は私にとっての一生の思い出となりました。この様な経験をさせて頂き、ありがとうございます。

早いもので、共済係に採用になり三ヶ月が過ぎようとしています。まだまだ勉強不足で皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、今後ともどうぞよろしくお願い致します。

『入所者の俳句を訪ねて』

宮城ハンセン協会事務局長 金子昌熙

私は青春時代の俳句の師・源十三夜の蔵書を整理し、宮城県図書館をはじめ、各県・市に寄贈してきたことを、折にふれ、書いてきた。整理中に入所者の諸氏の作品が掲げている資料を二つ発見したので、披露し思い出のよすがとしていただければ幸いと思つてゐる。

まず、一冊目は『宮城県俳句クラブ合同句集第一集』昭和五十一年（一九七六年）十二月二十五日発行。発行者・永野孫柳、発行所・同クラブ事務局・利府町在住の伊藤四郎氏となつてゐる。（私・金子は、伊藤氏に俳句ク

ラブ入会の連絡を受けていたが、評論の世界に踏み入り、自由な立場でものを書きたいと思つて、一切の文芸団体に所属せず、今日に至つてゐる。なお、生前、十三夜師が俳壇で、どこにも所属せず、もの書きをやつてゐるのは、山本健吉とお前・金子ぐらいだ、と言われたことがあつたが。さすが、私の心情を理解してゐたようである。）

「創刊のことば」で会長の永野孫柳先生が次のように述べておられる。「宮城県俳句クラブが改組・新生されて、早くも満一年の月

日が流れた。…四月には宮城県俳句大会（河北新報社と共催）。十一月には松尾芭蕉祭並びに全国俳句会（松島町と共催）…この年度に新しく「宮城県俳句賞」を設定…合同句集の刊行を実施…、全国的にも、そのほとんどが結社とか結社の支部とかを主体として刊行されているのだが、個人を加入単位として結合された超結社の組織によるものは稀である。…この合同句集によつて、県民は県内の有力俳句作家の近作を手近に鑑賞できる。それと同時に、県全体の作家の作品水準をも評価できることから、現在作句し、その一筋につながつて生活を豊かにしようとする県民の方々に、句作の大きな起爆剤となつて、県俳壇を受継ぐ作家のこよなき手引きになるに違いない、と。

また、「跋」で、一九七六・一一・二五で伊藤四郎氏は、「県俳句賞の設定については、慎重派の時期尚早論もあり…しかし、合同句集刊行については、一人の異見もなく、

満場一致した。…宮城県俳句クラブは個人をもつて集まる純然たる超結社の組織である。…これは一步を進めた現代の感覚である。個々の所属する結社を矜持してなお鍛錬を積むことは最も大切であるが、その折角の精進が上御一人という目標（初学時代はそれでよい）で狂信的模倣的に終始したとしたり、それには誰かの傀儡にすぎず、遂にはその結社の単なる員数として終わるだろう。…「創造の世界に権威を持ち込むことは罪悪である。」という名言がある。この合同句集は個人主義本位に編まれ、無差別平等を本心とする俳句クラブの象徴である。約四〇〇名の会員の参加が望ましかったが、今回は最初の試みでもあり、募集期間も短く一八〇余名にとどまつた。…と述べておられる。

少々、長々と引用してきたが、この運動が五年後「昭和五十六年（一九八一年）十一・八」の「宮城県俳句歳時記」（「新生」誌・第六十一巻第三号・平成二十一・九・二〇刊の拙稿

参照)の刊行につながり、ひいては、県文芸協会↓県芸術協会と発展を遂げ「仙台文学館」の設立につながっていくのである。筆者・金子も「宮城県図書館」に転出し、近代文学館の資料収集に携わっているの、あえて記させていた。だいた。

さて、「宮城県俳句クラブ合同句集第一集」の内容について、記しておきたい。B5・本文一八六頁。プラス「創刊のことば」と「跋」各一頁、「目次」四頁、を費やしている。各結社の収録作家・一八六名。ひとり、十五句の収録。だが、一名市川松雄氏(十一頁)だけが六句?のみの集録となっている。よって、(15×185=2775句+6 合計2781句)が集録されている。昭和期の若かりし頃の宮城県在住の俳人達(作品(作風)を知る貴重な作品集になっていることは言うまでもない。しかも、アイウエオ順での集録でここにも平等な取扱がみられて、好感がもてる。この貴重な合同句集に、東北新生園入所者

の四氏(太田司老・28頁、小林春美・65頁、鈴木磐井・105頁、湯浅玉泉・176頁)の作品が見られるのは、なんとも嬉しい。次の作品がそれである。残念ながら、四人とも故人となられた。太田氏(平成八年(一九九六)二月四日没、小林氏(昭和五十七年(一九八二)六・二八没、磐井氏(平成二十四年(二〇一二)十・十一没、湯浅氏(昭和六十二年(一九八七)十・十九没)。今、気付いたが小林春美氏は、「宮城県俳句歳時記」の出版直前に亡くなっておられる。ご自分の作品の集録を覽ることが出来なかったのではと思うとも悲しい。

次に四氏の掲載全句を紹介する。ついでに、改作句を含めて「宮城県俳句歳時記」に採られている作品も併せて紹介する。
鈴木磐井氏の作では、「二匹の」。「ふた谿の」の句は「搏てる」が「搏つて」と改作されて集録されている。「一枚の」「元旦の」の四句が「宮城県俳句歳時記」に集録されて

いる。また、湯浅玉泉氏の作では、十五句の最後の句が「玻璃を拭く雪の栗駒すぐそこ」と傍線部が改作されて集録されている。

【心眼】

太田司老

心眼にうかぶ夕月あたゝかし
白砂踏む無心の呼吸合歡の花
遺志を継ぎ来訪三度麦は穂に
古竹の緑の奥に家郷あり
身の緊まる田沢の湖涼白砂踏む
光茫へ一夜の力やんまとぶ
子等の瞳のあつまつてをり蟬高し
桔梗挿す白磁の壺の染まるまで
秋燕や微塵もかげりなき夕日
合掌の奥よりのぼる初冬の日
降る声は遠くの雁の高渡り
牡丹苗のみに薫被せ冬に入る
元旦の居を異にして合掌す
大年の湯にふかぶかと故山あり

水口に寒のもどりの鷺一羽

【還暦】

小林春美

濡れ縁に日射しとどかず四月尽く
早打ちの点字タイプに風光る
滴りや森をゆさぶる朝の鐘
還暦といふ安けさに水を打つ
土を嗅ぐ犬に秋めく風立ちぬ
伝来の田より冷害兆しけり
谷小春父より継ぎし木挽唄
日に三度風向き変り冬に入る
嫁迎う日どり決りぬ長き夜
束稲の峯ほとばしるほととぎす
木の間より平和の賛歌初灯
初ミサに十字切る手を温むる
父の日や茶の香ふくらむ相馬焼
春愁や主婦の座ゆずる五十妻
姑となりたる妻や春惜しむ

【いのち】

鈴木 磐 井

我に春灯君には安き眠りあれ
死を吞みし永久のいのちをみし春灯
初音聞けいまは自在の君よ来て
われも又老の反骨耕せり
うすくれないはじらう如し合歡の花
濡れば溶け失せんうす紅合歡の花
一匹の蟻が消されし道つなぐ
ふた谿の霧相搏てる刈田岳
一枚の反古に秋思の灯を点す
木漏れ日のまたゝきにふれ木の実落つ
大尾根のすすきのみがく入り日かな
冷えをふく能面の目をふりきれず
不信射抜く聖画の主イエス初曆
雪の夜医師を主イエスとして迎ふ
元旦の村は白鳥日和かな

【夏衣】

湯 浅 玉 泉

人杖の肩のぬくもり春浅し
太棹の三味の音弥生讃う曲
柚子釜の味噌匂うなり祖母偲ぶ
桔梗に息ととのえて磴登る
日帰り旅雨の出羽路の花杏
留守を守る膝に重たき孕み猫
蒲団干す先より蝶の生れけり
安静の汗拭き給う老牧師
荷を解けば母の針あと夏衣
幼き日たぐる綿菓子秋祭
安らかな菊のいち日母とゐる
初氷杖替える手に息かける
身づくろいすませ炉端を出るでなし
小止みなき雪のいち日ヨブ記讀む
玻璃を拭く雪の舟形山そこに

宮城県俳句クラブ会員約四百名の五割弱の

参加・出句のあったこの第一集の作者名のうち、私と関わりのあった方、俳名に記憶があったり、源十三夜師と関わった方なども含めて紹介すると、

安澄万冬、石崎素秋、市川ゑ水、伊藤四郎、遠藤梧逸、及川檐溜、大森昭、奥田七橋、落合寿美女、菅野善守、小林松風、境野青葉、桜井菜緒、佐藤鬼房、佐藤豊、志賀白雲子、島田紅帆、庄子真青海、庄子八軒、須ヶ原樗子、菅原関也、鈴木綾園、鈴木貞二、高橋次郎、寺沢碧水、田中黄河、永野孫柳、馬場柵太郎、平間彌生、古内一吐、星喜草、松木利次、源十三夜、宮城蟹太郎、面来痴草、山崎冲樹、山家竹石、我妻豊子、渡辺吐石、の諸氏諸姉の名があげられよう。が、当然、出句集録されてよい方も二、三、想い当たるが、ここでは、触れないことにしよう。なお、本書の印刷を引き受けた「仙台膳耕社」主は、面来痴草氏であろう。青春時代、氏の蔵書（詩の全集・創元社）をお借りして、現代から遡って読み、

明治期を読み残した？記憶などが蘇る。もうほとんどの方が鬼籍に入られているが……。奥付の上部に、編集委員名が記されている。渡辺吐石（委員長）、石崎素秋、小林松風、庄子八軒、松木利次、渡辺ひろし（入所者のひろし・渡辺泰広氏とは別人）菅原関也、の諸氏と。

東北新生園入所者四氏の作品はもとより、他の諸氏の作品の内容にも一言も触れなかったが、あえて記せば、皆さんほとんどが若かりし頃の作品で、新しさを求めようとする意欲は伺えようが、表面きって、評価するには筆が進まない、というのが正直な感想である。とにかく、昭和六十一年（一九八六年）の中田地区の被害を逃れ、平成二十三年三月十一日東日本大震災でも残った、虫食いと染みだらけの本書が、私が後日何かの、貴重な資料になるだろうと書簡等と一緒に残しておいた本に入所者諸氏の作品が掲載されていたとは、深い縁があったからであろう。

ついでに、もう一つ『第九回宮城県俳句大会句稿』日時 昭和五十四年四月二十二日（日）午前十時 場所 河北新報社5階ホール 主催 河北新報社・宮城県俳句クラブ B5横組み、針とじ、三十八頁、集録句・一一一九句。一口・三句（複数口応募の作者多数）応募人数二五一名、選者七名 遠藤梧逸、佐藤鬼房、永野孫柳、鈴木貞二、安澄万冬、渡辺吐石、古内一吐の七名の諸先生。各氏、特選三句と入選句十五句。一枚別刷りで、特選と入選の句が番号で一覧表になって、挟まれている。表紙裏面に実行委員十五名が記されている。奥田七橋（委員長）、石崎素秋、松木利次、渡辺大年、志賀白雲子、山田穰二、菅原関也、小林松風、佐治英子、大森昭、菅野善守、桜井菜緒、菅井青宵、渡辺幸恵、及川一行の諸氏。

入所者の投句は、次の五氏。湯浅玉泉、太田司老、園永泊、鈴木磐井、小林春美の諸氏。前掲の「宮城県俳句クラブ第一集」に園永泊

氏（生存）が加わったことになる。前、四氏が十三頁に掲げ、離れて、小林春美氏が三十六頁に載っている。なお、春美氏の作、「三陸」の句が鈴木貞二先生の選の入選句に掲げられている。この句は「宮城県俳句歳時記」にも集録された作品である。他の四氏は選に洩れている。なお、湯浅氏の「年の豆」の句は「年玉の作占いの十二粒」と改作され、これも「宮城県俳句歳時記」に掲載されている。

投句作は次のとおり、合計十五句。

湯 浅 玉 泉

車椅子廊下すいすい長閑かな
蓬餅貰うて帰る貰い風呂
年の豆作占いし十二粒

太 田 司 老

ものの芽や田螺息づく孔光る
下萌に明けし鴉の通り道
命拾いに植えし梅なり誕生日

園 永 泊

初蝶や白杖の先き先き土匂う
白杖のばす散歩は治療木の芽光
ちぎれつつ相会う雲や木の芽光

鈴 木 磐 井

啓蟄の納屋に戦後の薪焔炉
小鳥らに山家は山や日脚伸ぶ
風花にねらわれし目をそむけつつ

小 林 春 美

沼草の根を食いつくし鵲帰る
三陸の荒海しづめ雁帰る
闘病の夕べの祈り鐘霞む

訃報

まつもと かずや（松本和也）氏（平成二十六年（二〇一四年）四月十四日没。氏は、永年「口語俳句」誌を主宰。他にも、多才な

顔を持つ。

○句集『かこかんりよう』（昭和三十四年（一九五九年）四月十日刊・三元社、一五六頁。

○評論・エッセイ集『するり』清水屋書店、一九一頁。

○東京史跡ガイド⑥『台東区史跡散歩』ポケット版・学生社刊、二二二頁。（本書は、単なる東京台東区の名所旧跡案内にとどまらず、著者の俳人としての素養が随所にちりばめられている。特に、俳人を中心に文人達の墓所やエピソードを巧みに折り込んで、特異なガイドブックになっている。【昭和五十二年（一九七七年）十月十日刊】

同書の著者略歴に、一九二八年東京浅草に生まれる。日大国文学科を経て、創作、評論を主に、文芸協会、俳文学会々員、著書に「田植唄考」「遠野物語ってなんだ」「黒田忠次郎全容」「戦争俳句」（注・筆者・金子も寄稿）ほか多数がある。台東区教育委員会に勤務。現住所 埼玉県…」との記載あり。

『口語俳句』二〇一一年憂愁号の拙稿『ハンセン病（俳句）の本質とは』―「ハンセン病文学全集」所載俳句（川柳）をめづつて―の拙稿の注「⑤」の一般俳人が癪を詠んだ作品で取り上げるべきだったが、うっかり、調査不備で書きもらしたので、補足したい。句集『かこかんりよう』まつもと かずやより、

ライ患者の「肺病がきた」という声かきねのなかできくゆうぐれきている

ライ患者ふたりまぶしいつらうつむけて口きかずバス待っている

ライかるくキャッチボール球がひいらぎのかこみをでてはしかたがない

ライとして子を産みその喜々とした声にすきな放送けされるとき

他にもまだまだ揭せたい作品がある。

とにかく、私が『口語俳句』に寄稿の句集『巢立』評など、俳壇内外に衝撃が走った、との述懐の書簡を寄せて下さった。が、また、特集号を出版したいと意欲を見せながら、二年間の闘病生活の末、他界。私にとっては俳人内外唯一の畏兄を失った。近年、「永井荷風全集」を二セットも買っていたのでと一セツトいただいた。氏は日記が面白いといわれた、折をみて、目を通すつもりである。後年、氏自身で立ち上げた「下町風俗資料館」の長にも就任。ラジオやテレビに出演していたことも付記しておきたい。氏は、日大の経済学部他にも在籍？多くの学科を履修した様である。ついでながら、氏のご母堂（平成十二年・九十三歳没）は浅草小町とうたわれ、双葉山の初恋の人だったといわれる。私も松本氏邸で二度程お逢いしている。近年、自家産のみかんやキウイなどを贈って下さった。仙台かまぼこが好きなかずや氏も小柄で白皙の美男

以上が、第一部に集録されている。第二部には、ライの句は見当たらない。

他に、

ありの死へ人いつかつづかねばならぬ

清瀬村にも水害でたかくなった米うりつけにくるしかも東京から

療養所まわりの農家がじまんのたまご東京なみ十九円といい

いつもまつさきにふきあがる枯葉ひと葉親のない子の就職むつかしく

毎年おなじデモくりかえし参議院におくつたあいついかがしましたか

被爆した人たちにも税金かかり耳とられたそのない方でたずねられる

子だった。合掌。

仁科静夫様（福島県新地町住・被災地）肺気腫・肺線維症で本年十月九日没。七十八歳。氏は、ピアノやホルン（三・七米）の奏者で東北新生園の野外にホルンを響かせたいと意欲をみせしが近年病床にあり。隠れた支援者として紹介したい。御尊父は数ヶ国語を話す大学教授？氏も、非常な秀才。疎開学童のひとりだった。（追記・本年十二月十八日の河北新報・29頁の部活動記事参照）

付記

『宮城県俳句クラブ合同句集第一集』には題名の次に「略歴」欄あり。①氏名②生年月日③現住所④職業⑤所属誌⑥句集等⑦師系・賞歴などの記入あるも紙数の都合で割愛。四氏とも俳誌「駒草」所属。

詩

佐々木 洋 一 選

◇ 入 選 ◇

《「浜は大漁大賑わい」(二)》

北 辰 一 硯

私の子供の頃は鰯は
簗を持って行けば
ただで貰える魚であつた
今では鰯は高級魚並の扱いであり
生鰯にお目に掛かる事もなく
思い出の中で泳いでいるのだ

初秋になると鰯漁が
本格的になり、足の踏み場もなく
水揚げされて、組合員の家毎に
捕れ立ての鰯が配られ
煮干し、焼干し、ガラ干し、塩漬け
鰯粕(肥料)等々に製造され
付加価値を付けて出荷すれば
五倍も十倍も儲かるのである

そんな時には人手が幾らあっても
足りず子供達も手伝って
一家総出の忙しさである
あとで駄賃が貰える
楽しみが子供達にはあつた

嫁に行くなら浜に嫁げと
言われる位浜は裕福その物だった
嫁になる女も多かった
それと同時に子供達の賑わい
人口も一万人に達し漁村が町に昇格

昭和十五年の事である

若者達は家庭を持ち
殆どが漁業を継ぎ漁業組合に入り
生甲斐を感じ季節季節に獲れる魚も
数え切れないほどある中でも
イカ釣りの思い出は忘れ難く
目の裏に焼きついている

小舟を櫓や櫂で三人から四人で
沖へ沖へと一時間から二時間
力一杯漕いでゆき今日はここが
良いと思う現場に着くと
早速錨を下ろしイカ釣りの準備に
掛かるのである
廻りの舟も等間隔に
思い思いに並び合うのである

その頃になると夕日が美しく
百隻ほどの小舟が次々と釣り始める

釣り上げたイカが潮を吹き
小舟はイカの噴水と夕日に交叉して
次々とイカが舟に
飛び込んで来るような
錯覚にかられ、それはそれは
見事な光景である

イカのナグラが五十分位続き
釣り竿の動きも鈍くなり
一段落付いたように竿を休める
夜の帳が降り、海上に町が出来て
漁火が輝く様はお伽噺のようだ
二回目のイカのナグラが舟に当たると
舟上に再びイカと真剣勝負となる
竿捌きの上手な人ほど量も多く
釣り上げるのである

浜では母ちゃん達が提灯を下げて
舟の帰りを待っている

台所では野菜とイカをぶつ切り
大きな鍋で煮込んでいる
冷えた体には一番のご馳走だ
次の日は昨夜釣り上げた
外の舟の人達も浜の干し場に集り
裂きイカを浜風に当てて
スルメに仕上げるのだ
浜の母ちゃんの元気な声が
秋空に響き合って賑やかだ
浜の干し場は見事に
イカのカーテンになり
風に揺らいで美しい

漁に出て行く舟が今日も何隻も
漕ぎ出してゆく
豊かな海に感謝と畏敬の念を持って
家内安全・海上安全・大漁を祈願し
働いた分だけの幸せを分け合って
浜人は元気な日焼けした笑顔で

活気に満ちた一日が過ぎてゆくのだ
海の男の逞しさと浜の母ちゃんの
屈託ない笑い声が
今日も聞こえてくる

【選評】

《「浜は大漁大賑わい」(二)》

北 辰 一 硯

昭和十五年当時の浜の人々の生き生きとした様
子が目に見えるようです。(二)に続き力作で、
活気に溢れています。

自然に対する人々の感謝や畏敬の気持ちが失わ
れつつある昨今、自然からさらに大きなしつぺ返
しを受けるような気がしてなりません。

◇ 佳 作 ◇

《簾》

今 野 きよし

私の部屋の
ベランダに
簾を立てる
簾を見ると
ゆったり寛げる
超越したよな
心地になった

日本の住居は
寛ぐ部屋は
うす暗く
生活する所
明るく作り
情況に応じて
作るという

私の居間にも
そんな感じの
趣きありて

立てた簾に
朝顔の
花を飾って
和室と洋間
ひと言で
とても云えない
気持ちになった

立てた簾の
隙間から
遙か向うの
青空見えて
あちらとこちら
取り持つ簾
涼を呼ぶ

短歌

長田雅道選

◇入選◇

園内に花火を揚げて十七年森先生の心のひろさよ 北辰一 硯

【選評】

園内に花火が揚がるということは、外部の人にとっては珍しいことだ。それが十七年も続いているということは驚きである。森先生という方が花火に尽力されたのであろう。固有名詞もここでは活かしている。「心のひろさよ」によつて

人物像がよく表現されている。

夕方に伊豆沼目ざす雁の群れ強風受けて列の乱れる 今野 きよし

【選評】

伊豆沼に近い園にお住いの作者にとつては毎年目にされる景であろう。それは実に美しい景であろう。「強風受けて列の乱れる」は的確な表現で趣ある一首にしている。

◇佳作◇

だんご虫今朝も助けましたとりハビリの方先生笑顔で話す 北辰一 硯
原爆の熱線に黒焦げになりし幼な子をあ

俳句

山田桃晃選

◇入選◇

朝涼し読書疲れの背を伸ばす 今野 きよし

【選評】

読書の秋ともなれば夜ふかしは平氣のへいざ。さて、どんな本なのだろうか。時代物にはじまり恋愛物と、好みは時代物かも知れない。夜が明けるまで楽しみ、背筋を伸ばす朝の涼しさは格別だろう。

やす姿に胸がうずきぬ
皮膚ただれ見るも悲惨な原爆の罪の深さを誰が償う
核兵器減らす事なき平和論各国の首脳の心読めざる
園内の夜空に揚がる大花火近郷近在の絆となりぬ

今野 きよし

左利き子供の頃は恥ずかしく隠れてそつと刃物使いき
左利き字を書くときの左手に教師の眼いつも光りて
今晚は明るい声の看護師の夜勤と告げて部屋毎廻る
春も来て又面会に來ると云う最後と思ひその日を待てり
ごめんねと夕食終えし吾が部屋に下膳に來たる介護員の声

嵐にも負けず案山子が胸を張り 園 永 泊

【選 評】

時代の流れに様々な色彩の案山子が飾られる田畑。農婦になりきった案山子は頑固で嵐にも負けずに、実りの秋を愛でて居る。胸を張る案山子の力を労う心が伝わって来る。

◇ 佳 作 ◇

園 永 泊

朝顔や呼べど帰らぬ夕日中
木にすがり余命の限り蟬の声
杖立てに杖を休める体育日
しまりない顔でとちの実転げてる

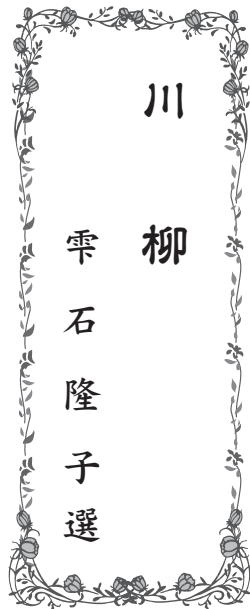
今 野 きよし

ぎこちなく羽抜け鳥のとび去りぬ
ぴかぴかのトイレ据えられ夏祭
物思う葉のひるがえる蓮の花

奥の間の小暗き部屋に昼寝かな 園 永 泊

【選 評】

昔の造りの家の奥の間と言え
ば、納戸、お年寄りか又は新婚さ
んの初夜を過ごす部屋。こざつぱ
りとした明かり窓が一つあり、昼
寝には最高。じっくりお休み下さ
い。



◇ 入 選 ◇

《人位》 今 野 きよし

探し物三步下がって思い出し

【選 評】

毎日のように探し物をするのも
老化現象の一つ。誰もが経験する
現象だが、その解決法に「三步下
がる」と言うのは、来し方を振り
返る謙虚さにある、ということだ
ろう。探し物する人へのヒントで
ある。

《地位》 長 沼 蓮 花

仕舞い風呂だけど至福の時間です

【選 評】

家中の最後に入る仕舞い風呂。
入浴後は、日の家事の総仕上げに
風呂掃除をする。これもまた「至
福の時間」と言えるのは、主婦の
鑑である。充実した人生観でもあ
ろう。

桃 生 小富士

《天位》 ふる里の海が呼んでる鰯雲

【選 評】

「鰯雲」はうろこ雲、鰯雲とも
呼ばれ秋に多く生じる。漁師は鰯
大漁の兆しとして喜ぶとも言われ
ている。ふる里に寄せる望郷の念
が、書かせた一句でもあろう。幾

つになっても忘れがたきは、ふる里である。

◇ 佳 作 ◇

桜 山 南 仙

日本の心は三百六十度
大木に余命の限り蟬の声
茶柱を信じ過ぎても躓かれ

今 野 きよし

もう少し丸みがほしい年齢となり
手をつなぎ二人で渡る天の川
お早うの一言眩し百合の花

長 沼 蓮 花

体重計に乗って反省ばかりする

初サンマ香りで進む夕ご飯
子犬飼うリビングいつも笑い声

桃 生 小富士

ロボットの危険窮まりない使命
ロボットも命がけです事故現場
歩けない俺にはロボット羨まし



「残り香」

北 辰 一 硯

化粧品や洗剤・柔軟剤・芳香剤はいい香りであるが、好きな人ばかりではない。いい匂いなのに匂いに敏感な人は、喉や目・鼻に刺激が起きる、喉はイライラ痛くなる。鼻はムズムズ、ひどくなるとクシャミ・鼻水が出る。目はしょぼしょぼして痒くなる。

空間の広い場所では良いけれども、車の中や小部屋の中では匂いが籠って、化粧品や洗剤の香りがいつまでもその人が去っても漂っている。煙草は規制されているけれども、喫煙者が傍に来ると嫌だと思ふ事がある。

科学的に造り出された、様々な香料の匂いが、生活の中に充満している。スプレー剤は言うまでもなく、洗剤の仕上げの糊にも食品にも香料が使用されている。ありとあらゆる物に香りが長く残るように造られ、香料入りの手洗い洗剤は洗った後もいつまでも手に残る。

洗濯場で仕上げられている予防衣・白衣にも柔軟剤・洗剤の匂いがキツイと思うほど残っている。介護・看護を受けている私にとつては、泣きたくなるほど辛い匂いである。洗濯場の職員の人達も、洗剤や柔軟剤の匂いの強い物は使用せずに減らして欲しいと願っている。

今日も介護員さんが、私の所に床を敷きにきました。衣服に残っている洗剤・化粧品の匂いが部屋に籠って、部屋を開けても中々匂いが抜け切れず、寒くなるので閉めるほかは有りません。結局私一人が苦しむ事になるので、午後九時寝るまでに、何回も嗽をしてよ

うやく眠る事が出来ました。化粧や洗剤の匂いは、私にとつては敵そのものです。匂いに悩み苦しんでいる人がいる事を知ってほしいのです。

また女の人達は美しくありたいと願ひ、高価な化粧品や保湿剤を嗜み使用した結果、肌に合わない人は瞼が赤く腫れ上がり、手足にまで発疹が出来て、一年も二年も治らない人もいる事を、テレビで見た事がありました。本当に見るも痛々しく可哀相でした。

何にも彼も便利な世の中になり、香りや匂いを始め、科学的に合成された物が叛乱し、今困っているのは、プラスチック製のボトルやビニール袋等々が野に山に川や海の環境を汚染している。すなわち公害である。便利な良い物には必ずプラスとマイナスがあるものです。また洗剤には匂いセンサーがあつて汗をかくといい匂いに変身するそうです。吃驚しました。

昔の固形洗濯石鹼や顔や手を洗う花王石鹼が懐かしくさえ思えます。ごく自然な香りと匂いに包まれて、快適な終活、生活を送りたいと願っている者です。

